

1-1 防災関係機関

(県危機政策課) R4.4.1

機関名	電話番号	所在地	郵便番号
中央防災会議	03-5253-2111(代)	東京都千代田区永田町1-6-1	100-8969
〃(夜間・休日 宿直室)	3501-5408 3501-5695		
(指定行政機関)			
内閣官房(内閣官房副長官補 (安全保障・危機管理担当)付)	03-5253-2111(代)	東京都千代田区永田町1-6-1	100-8914
内閣府	03-5253-2111(代)	東京都千代田区永田町1-6-1	100-8914
〃(大臣官房総務課)	03-6257-1187	東京都千代田区永田町1-6-1	100-8914
〃(政策統括官付参事官室 総括担当)	03-3501-5408		
〃(〃 災害緊急事態対処担当)	3502-6047		
〃(〃 地方・訓練担当)	3503-2236		
〃(〃 調査・企画担当)	3501-5693		
〃(〃 防災計画担当)	3501-6996		
〃(〃 普及啓発・連携担当)	3502-6983		
〃(〃 防災デジタル・物資支援担当)	3503-2231		
〃(〃 避難生活担当)	3501-5191		
〃(〃 被災者生活再建担当)	3503-9394		
〃(〃 復旧・復興担当)	3501-5696		
原子力規制委員会	3581-3352(代)	東京都港区六本木1-9-9	106-8450
国家公安委員会	03-3581-0141(代)	東京都千代田区霞ヶ関2-1-2	100-8974
警察庁(警備局警備課)	03-3581-0141(代)	東京都千代田区霞ヶ関2-1-2	100-8974
防衛省	03-3268-3111(代)	東京都新宿区市谷本村町5-1	162-8801
〃(運用企画局事態対処課)	5269-3246		
金融庁	03-3506-6000(代)	東京都千代田区霞ヶ関3-1-1	100-8967
〃(総務企画局総務課)	3506-6026		
消費者庁	03-3507-8800(代)	東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー	100-6178
〃(総務課)			
総務省	03-5253-5111(代)	東京都千代田区霞ヶ関2-1-2	100-8926
〃(官房総務課)	5253-5089		
〃(自治財政局財政課)	5253-5612		
消防庁	03-5253-5111(代)	東京都千代田区霞ヶ関2-1-2	100-8927
〃(防災課)	5253-7525		
〃(防災情報室)	5253-7526		
〃(応急対策室)	5253-7527		
〃(特殊災害室)	5253-7528		
法務省	03-3580-4111(代)	東京都千代田区霞ヶ関1-1-1	100-8977
〃(官房秘書課広報室)	3592-5396		
外務省	03-3580-3311(代)	東京都千代田区霞ヶ関2-2-1	100-8919
〃(官房総務課)	6402-2797		
財務省	03-3581-4111(代)	東京都千代田区霞ヶ関3-1-1	100-8940
〃(参事官室)	3581-7934		
〃(主計局法規課)	3581-3027		
文部科学省	03-5253-4111(代)	東京都千代田区丸の内2-5-1	100-8959
〃(研究開発局地震・防災研究課)	6734-4138		

機関名	電話番号	所在地	郵便番号
〃（研究開発局地震・防災研究課 防災科学技術推進室）	6734-4134		
〃（科学技術・学術政策局 防災環境対策室）	6734-4041		
〃（官房文教施設企画部施設企画課）	6734-2523		
文化庁（官房政策課）	03-5253-4111（代）	東京都千代田区丸の内2-5-1	100-8959
厚生労働省	03-5253-1111（代）	東京都千代田区霞ヶ関1-2-2	100-8916
〃（官房総務課）	3595-3037		
〃（社会・援護局保護課災害救助対策室）	3595-2614		
農林水産省	03-3502-8111（代）	東京都千代田区霞ヶ関1-2-1	100-8950
〃（大臣官房文書課災害総合対策室）	3502-6442		
経済産業省	03-3501-1511（代）	東京都千代田区霞ヶ関1-3-1	100-8901
〃（大臣官房総務課）	3501-1327		
資源エネルギー庁	03-3501-1511（代）	東京都千代田区霞ヶ関1-3-1	100-8931
〃（長官官房総合政策課）	3501-2669		
原子力規制委員会	03-3581-3352（代）	東京都港区六本木1丁目9番9号	106-8450
〃（原子力規制庁）			
中小企業庁	03-3501-1511（代）	東京都千代田区霞ヶ関1-3-1	100-8912
〃（事業環境部企画課経営安定対策室）	3501-2698		
国土交通省	03-5253-8111（代）	東京都千代田区霞ヶ関2-1-3	100-8918
〃（大臣官房参事官（運輸安全防災担当）付）	5253-8309		
〃（河川局防災課災害対策室）	5253-8461		
国土地理院（企画部企画調整課）	0298-64-1111（代）	茨城県つくば市北郷1	305-0811
気象庁	03-3212-8341（代）	東京都千代田区大手町1-3-4	100-8122
〃（総務部企画課）	3214-7902		
海上保安庁	03-3591-6361（代）	東京都千代田区霞ヶ関2-1-3	100-8918
〃（警備救難部環境防災課）	3591-9819		
環境省	03-3581-3351（代）	東京都千代田区霞ヶ関1-2-2	100-8975
〃（大臣官房総務課）	3580-1374		

機関名	電話番号	所在地	郵便番号
(指定地方行政機関)			
警察庁関東管区警察局	048-600-6000	埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館	330-9726
防衛省南関東防衛局	045-211-7102	神奈川県横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎	231-0003
〃 浜松防衛事務所	053-453-8958	浜松市中区中央1-12-4 浜松合同庁舎	430-0929
〃 富士防衛事務所	0550-82-1622	御殿場市萩原606	412-0042
総務省東海総合通信局	052-971-9112	愛知県名古屋市東区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館	461-8795
財務省東海財務局静岡財務事務所	054-251-4321	静岡市葵区追手町9-50	420-8636
厚生労働省東海北陸厚生局	052-971-8831	愛知県名古屋市東区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館	461-0011
厚生労働省静岡労働局	054-254-6311	静岡市葵区追手町9-50	420-8639
農林水産省関東農政局	048-600-0600(代)	埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館	330-9722
〃 静岡県拠点	054-246-6212	静岡市葵区東草深町7-18	420-8618
林野庁関東森林管理局	027-210-1150	群馬県前橋市岩神町4-16-25	371-8508
〃 静岡森林管理署	054-254-3401	静岡市葵区駿府町1-120	420-0856
経済産業省関東経済産業局	048-600-0213	埼玉県さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館	330-9715
経済産業省中部経済産業局	052-951-2683	愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2	460-8510
経済産業省関東東北産業保安監督部	048-600-0433	埼玉県さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館	330-9715
経済産業省中部近畿産業保安監督部	052-951-0558	愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2	460-8510
国土交通省中部地方整備局	052-953-8357	愛知県名古屋市中区三の丸2-5-1	460-8514
〃 清水港湾事務所	054-352-4146	静岡市清水区日の出町7-2	424-0922
〃 富士砂防事務所	0544-27-5221	富士宮市三園平1100	418-0004
〃 静岡国道事務所	054-250-8906	静岡市葵区南安倍2-8-1(管理1課)	420-0054
〃 静岡営繕事務所	054-255-1421	静岡市葵区春日2-4-25	420-0823
〃 静岡河川事務所	054-273-9160	静岡市葵区田町3-108(地域防災調整官)	420-0068
〃 沼津河川国道事務所	055-934-2009	沼津市下香貫外原3244-2(調査課)	410-8567
〃 浜松河川国道事務所	053-466-0111	浜松市中区名塚町266	430-0811
〃 長島ダム管理所	0547-59-1021	榛原郡川根本町犬間541-3	428-0402
国土交通省関東地方整備局	048-601-3151	埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館	330-9724
〃 甲府河川国道事務所	055-252-5491	山梨県甲府市緑が丘1-10-1	400-8578
〃 富士川砂防事務所	055-252-7108	山梨県甲府市富士見2-12-16	400-0027
国土交通省中部運輸局	052-952-8049	愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1	460-8528
〃 静岡運輸支局	054-261-2939	静岡市駿河区国吉田2-4-25	422-8004
〃 静岡運輸支局清水庁舎	0543-52-0174	静岡市清水区日の出町9-1 清水港湾合同庁舎内	424-0922
〃 静岡運輸支局下田海事事務所	0558-22-0843	下田市3-18-23 下田運輸総合庁舎内	415-0023

機関名	電話番号	所在地	郵便番号
国土交通省東京航空局東京空港事務所	03-5757-3020	東京都大田区羽田空港3-3-1	144-0041
〃 静岡空港出張所	0548-29-2300	牧之原市坂口字高尾山1250-52	421-0411
国土地理院中部地方測量部	052-961-5644	愛知県名古屋市中区三の丸2-5-1名古屋合同庁舎2号館	460-0001
気象庁東京管区気象台	042-497-7208	東京都清瀬市中清戸3-235	204-8501
気象庁静岡地方気象台	054-286-3411	静岡市駿河区曲金2-1-5	422-8006
海上保安庁第三管区海上保安本部	045-211-1118	神奈川県横浜市中区北仲通5-57	231-0003
〃 清水海上保安部	054-353-0118	静岡市清水区日の出町9-1	424-0922
〃 下田海上保安部	0558-25-0118	下田市3-18-23 下田運輸総合庁舎内	415-0023
〃 御前崎海上保安署	0548-63-4999	御前崎市港6170-2	437-1623
(指定公共機関)			
日本郵便株式会社東海支社	052-446-8220	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1	469-8797
日本銀行静岡支店	054-273-4100	静岡市葵区金座町26-1	420-0025
日本赤十字社静岡県支部	054-252-8131	静岡市葵区追手町44-17	420-0853
日本放送協会静岡放送局	054-654-4001	静岡市駿河区八幡1-6-1	422-8787
中日本高速道路(株)東京支社	03-5776-5655	東京都港区虎ノ門4-3-1	105-6011
〃 御殿場保全・サービスセンター	0550-82-4803	御殿場市東田中1140	412-0026
〃 富士保全・サービスセンター	0545-52-2505	富士市厚原1738-4	419-0201
〃 静岡保全・サービスセンター	054-286-5181	静岡市駿河区中島235-1	422-8046
〃 浜松保全・サービスセンター	053-588-5710	浜松市浜北区中瀬6008	434-0012
〃 名古屋支社	052-222-1319	愛知県名古屋市中区錦2-18-19	460-0003
独立行政法人水資源機構豊川用水水総合事業部	0532-54-6501	愛知県豊橋市今橋町8	440-0801
〃 豊川用水総合事業部	0536-33-0021	愛知県新城市川合字大嶋26	441-1601
(水源管理所)			
独立行政法人国立病院機構 東海北陸グループ	052-968-5171	名古屋市中区三の丸4-1-1 名古屋医療センター内	460-0001
電源開発(株)水力発電部中部支店	0568-81-2300	愛知県春日井市十三塚町1-43	486-0815
電源開発(株)中部支店佐久間電力所	053-965-0071	浜松市天竜区佐久間町佐久間2690	431-3901
東日本旅客鉄道(株)横浜支社 安全企画室	045-320-2088	神奈川県横浜市区平沼1-40-26	220-0023
東海旅客鉄道(株)静岡支社	054-284-2319	静岡市葵区黒金町4	420-0851
日本貨物鉄道(株)静岡支社	054-284-2224	静岡市葵区黒金町4	420-0851
東日本電信電話(株)神奈川事業部	045-212-8945	神奈川県横浜市中区山下町198 NTT横浜ビル3階	231-0023
西日本電信電話(株)静岡支店	054-205-9122	静岡市葵区御幸町4-6	420-0857
日本通運(株)静岡支店	054-254-3344	静岡市葵区御幸町11-30	420-0857
東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社	055-915-5474	沼津市大手町3-7-25	410-0801
中部電力(株)静岡支店	054-273-9001	静岡市葵区本通2-4-1	420-0064
中部電力パワーグリッド(株)静岡支社	054-273-9012	静岡市葵区本通2-4-1	420-0064
KDDI(株)中部総支社	052-747-8071	名古屋市中区名駅2-27-8 名古屋プライムセントラルタワー20階	451-8610
(株)ドコモCS東海静岡支店	054-265-7201	静岡市葵区東静岡1-3-43	420-0817

機関名	電話番号	所在地	郵便番号
(指定地方公共機関)			
大井川土地改良区	0547-37-7151	島田市中央町30番2号	427-0042
磐田用水東部土地改良区	0538-42-3175	袋井市新池3001	437-0043
寺谷用水土地改良区	0538-32-4655	磐田市加茂1	438-0804
浜松土地改良区	053-428-3893	浜松市北区都田町8807-2	431-2102
富士川用排水土地改良区	0545-51-0123	富士市永田町1-100 富士市役所内	417-8601
大井川右岸土地改良区	0537-35-2413	菊川市加茂4905-2	439-0031
韭山土地改良区	055-949-6802	伊豆の国市四日町210-3 韭山農村環境改善センター	410-2123
静岡ガス(株)	054-284-4141	静岡市駿河区八幡1-5-38	422-8688
下田ガス(株)	0558-22-1321	下田市中467	415-0016
伊東瓦斯(株)	0557-37-0061	伊東市湯川543	414-0002
熱海瓦斯(株)	0557-83-2141	熱海市春日町16-53	413-0005
御殿場ガス(株)	0550-82-0876	御殿場市川島田600	412-0045
東海ガス(株)	054-628-7151	焼津市塩津74-3	425-0085
島田瓦斯(株)	0547-36-3900	島田市横井4-16-32	427-0024
中遠ガス(株)	0537-23-2211	掛川市中央1-18-1	436-0056
袋井ガス(株)	0538-42-8410	袋井市高尾1940-1	437-0023
サーラエナジー(株)浜松供給センター	053-462-9322	浜松市東区西塚町200	435-0044
(一社)静岡県LPガス協会	054-255-2451	静岡市葵区本通6-1-10 静岡県プロパン会館	420-0064
静岡鉄道(株)	054-254-5114	静岡市葵区鷹匠1-1-1	420-8510
伊豆箱根鉄道(株)	055-977-1201	三島市大場300	411-8533
伊豆急行(株)	0557-53-1111	伊東市八幡野1151	413-0292
岳南電車(株)	0545-53-5114	富士市今泉1-17-39	417-0001
大井川鐵道(株)	0547-45-4111	島田市金谷1112-2	428-0022
遠州鐵道(株)	053-454-2211	浜松市中区旭町12-1	430-0927
天竜浜名湖鐵道(株)	053-925-6125	浜松市天竜区二俣町阿蔵114-2	431-3311
(株)千鳥観光汽船	0559-43-2221	沼津市内浦三津43-7	410-0223
富士山清水港クルーズ(株)	054-353-2222	静岡市清水区日の出町10-80 マリンターミナル3F	424-0943
一般社団法人 ふじさん駿河湾フェリー	054-340-5223	静岡市清水区日の出町10-80	424-0922
(株)富士急マリンリゾート	0557-81-0541	熱海市和田浜南町6-11	413-0023
(株)伊豆クルーズ	0558-22-1151	下田市外ヶ岡19番	415-0015
堂ヶ島マリン(株)	0558-52-0613	賀茂郡西伊豆町仁科2060	410-3514
(一社)静岡県トラック協会	054-283-1910	静岡市駿河区池田126-4	422-8510
(一社)静岡県バス協会	054-255-9281	静岡市葵区御幸町11-10	420-0857
商業組合静岡県タクシー協会	054-261-1401	静岡市駿河区国吉田2-4-26	422-8004
静岡放送(株)	054-284-8950	静岡市駿河区登呂3-1-1	422-8033
(株)テレビ静岡	054-261-6115	静岡市駿河区栗原18-65	422-8525
(株)静岡朝日テレビ	054-251-3301	静岡市葵区東町15	420-8567
(株)静岡第一テレビ	054-283-6515	静岡市駿河区中原563	422-8058
静岡エフエム放送(株)	053-457-1153	浜松市中区常盤町133-24	430-8575

機関名	電話番号	所在地	郵便番号
(一社)静岡県医師会	054-246-6151	静岡市葵区鷹匠3-6-3	420-0839
静岡県道路公社	054-254-3421	静岡市葵区追手町9-18	420-0853
(公社)静岡県看護協会	054-202-1750	静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ3階	422-8067
(一社)静岡県歯科医師会	054-283-2591	静岡市駿河区曲金3-3-10	422-8006
(公社)静岡県病院協会	054-252-6326	静岡市葵区追手町44-1静岡産業経済会館6階	420-0853
(公社)静岡県薬剤師会	054-203-2023	静岡市駿河区馬淵2-16-32	422-8063
(一社)静岡県警備業協会	054-253-3661	静岡市葵区両替町1丁目4番地の15 芙蓉ビル4階	420-0032
(一社)静岡県建設業協会	054-255-0234	静岡市葵区御幸町9-9	420-0857
(一社)静岡県米養士会	054-282-5507	静岡市駿河区八幡1丁目1番4号 東海整備ビル4F	422-8076
(その他の防災関係機関)			
陸上自衛隊第1師団司令部	03-3933-1161	東京都練馬区北町4-1-1	189-8523
陸上自衛隊第34普通科連隊	0550-89-1310	御殿場市板妻40-1	412-8634
海上自衛隊横須賀地方総監部防衛部	046-822-3500	神奈川県横須賀市西逸見町1丁目無番地	238-0046
航空自衛隊第1航空団	053-472-1111	浜松市西区西山町無番地	432-8551
静岡県教育委員会	054-221-3677	静岡市葵区追手町9-6	420-8601
静岡県警察本部	054-271-0110	静岡市葵区追手町9-6	420-8610
静岡市長会	054-202-4343	静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ5階	422-8067
静岡県町村会	054-202-6701	静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ5階	422-8067
太田川原野谷川治水水防組合	0538-44-3166	袋井市新屋1-1-1	437-8666
(財)静岡県消防協会	054-221-2074	静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館7階	420-0853
静岡県消防長会	054-255-9703	静岡市葵区追手町6-2 静岡市消防局	420-0853
静岡県重機建設業工業組合	054-647-3231	藤枝市潮105-5	426-0007
東海汽船㈱	0557-82-2131	熱海市和田浜南町6-11	413-0023
朝日新聞社静岡総局	054-253-2101	静岡市葵区追手町7-2朝日新聞静岡ビル	420-0853
毎日新聞社静岡支局	054-254-2671	静岡市葵区七間町8-20	420-0035
読売新聞社静岡支局	054-252-0171	静岡市葵区追手町9-22読売静岡ビル3F	420-0853
共同通信社静岡支局	054-286-1251	静岡市駿河区登呂3-1-1静岡新聞制作センター5F	422-8033
産経新聞社静岡支局	054-255-5026	静岡市葵区伝馬町9-1河村ビル7階	420-0858
時事通信社静岡総局	054-252-1823	静岡市葵区追手町9-22読売静岡ビル2F	420-0853
静岡新聞社本社	054-284-8930	静岡市駿河区登呂3-1-1	422-8033
中日新聞社静岡総局	054-255-2121	静岡市葵区紺屋町11-17 桜井・第一共同ビル8階	420-0852
東京新聞社静岡総局	054-255-2121	静岡市葵区紺屋町11-17 桜井・第一共同ビル8階	420-0852
日本経済新聞社静岡支局	054-253-7191	静岡市葵区西草深町5-18	420-0866
中部経済新聞社三遠支局	0532-54-2668	愛知県豊橋市萱町21佐藤ビル3F	440-0896
日刊工業新聞社静岡支局	054-255-0431	静岡市葵区金座町47-1金座ビル5F	420-0025

1-2 県・市町

(市町、県危機政策課) R4.4.1

市町	担当課名	連絡先	時間内	時間外	防災行政無線備置系 8)
賀茂地域局		415-0037 下田市敷根 765-15 賀茂危機管理庁舎 2階	0558(24)2004	(24)2004	5-109-6010
下田市	防災安全課	415-8501 下田市東本郷1-5-18	0558(36)4145	(36)4145	5-233-9000
東伊豆町	防災課	413-0411 賀茂郡東伊豆町稲取 3354	0557(95)1103	(95)1100	5-235-9000
河津町	防災課	413-0595 賀茂郡河津町田中 212-2	0558(34)1112	(34)1111	5-234-9000
南伊豆町	総務課防災室	415-0392 賀茂郡南伊豆町下賀茂 315-1	0558(62)6211	(62)1111	5-232-9000
松崎町	総務課	410-3696 賀茂郡松崎町宮内 301-1	0558(42)3963	(42)1111	5-231-9000
西伊豆町	防災課	410-3514 賀茂郡西伊豆町仁科 401-1	0558(52)1965	(52)1111	5-230-9000
東部地域局		410-0055 沼津市高島本町 1-3	055(920)2180	(920)2180	5-103-6010
沼津市	危機管理課	410-8601 沼津市御幸町 16-1	055(934)4803	(931)2500	5-242-9000
熱海市	危機管理課	413-8550 熱海市中央町 1-1	0557(86)6443	(81)2555	5-237-6020
三島市	危機管理課	411-8666 三島市北田町 4-47	055(983)2650	(975)3111	5-243-9000
富士宮市	危機管理課	418-8601 富士宮市弓沢町 150	0544(22)1319	(22)1111	5-249-9000
伊東市	危機対策課	414-8555 伊東市大原 2-1-1	0557(32)1362	(36)0111	5-236-9000
富士市	防災危機管理課	417-8601 富士市永田町1-100	0545(55)2715	(55)2857	5-248-6020
御殿場市	危機管理課	412-8601 御殿場市萩原 483	0550(82)4370	(83)1212	5-246-9000
裾野市	危機管理課	410-1192 裾野市佐野 1059	055(995)1817	(992)1111	5-245-9000
伊豆の国市	危機管理課	410-2292 伊豆の国市長岡 340-1	055(948)1482	(948)1482	5-239-9000
伊豆市	危機管理課	410-2413 伊豆市小立野 38-2	0558(72)9867	(72)9867	5-238-9000
函南町	総務課	419-0192 田方郡函南町平井 717-13	055(979)8102	(978)2250	5-240-9000
清水町	くらし安全課	411-8650 駿東郡清水町堂庭 210-1	055(981)8205	(973)1111	5-241-9000
長泉町	地域防災課	411-8668 駿東郡長泉町中土狩 828	055(989)5505	(986)2131	5-244-9000
小山町	危機管理課	410-1321 駿東郡小山町阿多野 130	0550(76)5715	(76)1111	5-247-9000-9001
中部地域局		426-8664 藤枝市瀬戸新屋 362-1	054(644)9104	(644)9104	5-106-6010
静岡市	危機管理総室	420-8602 静岡市葵区追手町 5-1	054(221)1012	090(3484)608	5-250-9000
島田市	危機管理課	427-8501 島田市中央町 1-1	0547(36)7320	(37)5111	5-254-9000
焼津市	防災計画課	425-0041 焼津市石津 728-2	054(625)0128	(623)1119	5-251-6020
藤枝市	地域防災課		054(623)2554		
藤枝市	大規模災害対策課・地域防災課	426-8722 藤枝市岡出山1-11-1	054(643)3119	(623)1119	5-252-9000
牧之原市	危機管理課	421-0495 牧之原市静波 447-1	0548(23)0056	(23)0001	5-256-9000
吉田町	防災課	421-0395 榛原郡吉田町住吉 87	0548(33)2164	(33)1111	5-255-9000
川根本町	総務課	428-0313 榛原郡川根本町上長尾 627	0547(56)2220	(56)1111	5-253-9000
西部地域局		438-0086 磐田市見付 3599-4	0538(37)2204	(37)2204	5-107-6010
浜松市	危機管理課	430-8652 浜松市中区元城町 103-2	053(457)2537	(457)2066	5-263-9000
磐田市	危機管理課	438-8650 磐田市国府台 3-1	0538(37)2114	(37)2111	5-262-9000
掛川市	危機管理課	436-8650 掛川市長谷 1-1-1	0537(21)1131	(21)1111	5-259-9000
袋井市	危機管理課	437-0012 袋井市国本 2907 番地	0538(86)3701	(43)2111	5-261-9000
湖西市	危機管理課	431-0492 湖西市吉美 3268	053(576)4538	(576)1111	5-264-9000
御前崎市	危機管理課	437-1692 御前崎市池新田 5585	0537(85)1119	(85)1119	5-257-9000
菊川市	危機管理課	439-8650 菊川市堀之内 61	0537(35)0923	(35)2111	5-258-9000
森町	防災課	437-0293 周智郡森町森 2101-1	0538(85)6302	(85)2111	5-260-9000

県 庁	連 絡 先	時 間 内	時 間 外	防災行政無線(衛星系 8)
静岡県危機管理部 総務課 危機政策課 危機情報課 危機対策課 消防保安課消防行政班 " 産業保安班 原子力安全対策課 危機情報課防災情報通信班	420-8601 静岡市葵区追手町 9-6	054(221)2071 2456 3366 2072 2073 2076 2088 2925	(宿直室) (221)2072 (221)2073	*県庁統制局 5-700-6039 700-6030 *県庁危機管理センター 事案対応班用 700-6105 ~6119 6129 ~6140 原子力班用 700-6121 ~6122

1-3 報道機関一覧表

(県広聴広報課) R3.4.1

報道機関名	局名	電話番号	所在地	郵便番号
朝日新聞社	静岡総局	(054)253-2101	静岡市葵区追手町7-2	420-0853
毎日新聞社	静岡支局	" 254-2671	朝日新聞静岡ビル " 葵区七間町8-20	420-0035
読売新聞社	"	" 252-0171	" 葵区追手町9-22 読売ビル3F	420-0853
共同通信社	"	" 286-1251	" 駿河区登呂3-1-1 静岡新聞制作センター5F	422-8033
産経新聞社	"	" 255-5026	" 葵区伝馬町9-1 河村ビル7階	420-0858
時事通信社	静岡総局	" 252-1823	" 葵区追手町9-22 読売静岡ビ2F	420-0853
静岡新聞社	本社	" 284-8930	" 駿河区登呂3-1-1	422-8033
中日新聞社	静岡総局	(054)255-2121	静岡市葵区紺屋町11-17 桜井・第一共同ビル8階	420-0852
東京新聞社	"	"	"	"
日本経済新聞社	静岡支局	(054)253-7191	静岡市葵区西草深町5-18	420-0866
中部経済新聞社	三遠支局	(0532)54-2668	愛知県豊橋市萱町21 佐藤ビル3F	440-0896
日刊工業新聞社	静岡支局	(054)255-0431	静岡市葵区金座町47-1 金座ビル5F	420-0025
日本放送協会	静岡放送局	(054)654-4001	静岡市駿河区八幡1-6-1	422-8787
静岡放送	本社	" 284-8950	" 駿河区登呂3-1-1	422-8033
テレビ静岡	"	" 261-6115	" 駿河区栗原18-65	422-8525
静岡朝日テレビ	"	" 251-3301	" 葵区東町15	420-8567
静岡第一テレビ	"	" 283-8131	" 駿河区中原563	422-8560
静岡エフエム放送	"	(053)457-1152	浜松市中区常盤町133-24	430-8575
フジサンケイビジネスアイ(日本工業新聞社)	浜松支局	" 471-7011	" 中区城北2-14-3	432-8011

1-4 自衛隊緊急時連絡先一覧表

部 隊 名 (駐とん地名等)	時 間 内	時 間 外	電 話 番 号		
			代 表 番 号	時間内 (内線)	時間外 (内線)
第 34 普通科連隊 (板 妻)	第 3 科 長	駐 屯 地 令 当 直 司	0550-89-1310 〈防災行政無線 150-9002〉	235 236 237	301 302
東 部 方 面 総 監 部 (朝 霞)	防 衛 部 長 又 は 防 衛 課 長	運 用 室	03-3133-1161	2250 2251 2255	2461 (03-392 4-4499)
第 1 師 団 司 令 部 (練 馬)	第 3 部 長 又 は 第 3 部 防 衛 班 長	司 令 部 当 直 長	03-3933-1161~8	230 238	207 228
第 12 旅 団 司 令 部 (相 馬 原)	〃	〃	0279-54-2011	230 234 239	208
第 9 師 団 指 令 部 (青 森)	第 3 部 防 衛 班 災 害 派 遣 担 当 部 幹	駐 屯 地 令 当 直 司	017-781-0161	6262	6204
第 32 普通科連隊 (大 宮)	第 3 科 長	駐 屯 地 令 当 直 司	048-663-4241	437	402
第 1 空 挺 団 (習 志 野)	第 3 科 長	駐 屯 地 令 当 直 司	047-466-2141	236 218	301
富 士 学 校 (富 士)	企 画 室 総 括 班 長 又 は 防 衛 業 計 係 長	駐 屯 地 令 当 直 司	0550-75-2311 〈防災行政無線 151-9000〉	2200 2234	2302
海 上 自 衛 隊 横 須 賀 地 方 総 監 部 (横 須 賀)	防 災 総 括 幕 僚 又 は 作 戦 室	オペレーション室 当 直 幕 僚	046-822-3500 〈防災行政無線 156-9001〉	2543 2222	2222 2223
海 上 自 衛 隊 第 4 航 空 群 (厚 木)	司 令 部 室 作 戦 室	当 直 室 僚 当 直 幕 僚	0467-78-8611	2245	2245
海 上 自 衛 隊 第 21 航 空 群 (館 山)	司 令 部	〃	0470-22-3191	221	222 223
航 空 自 衛 隊 第 1 航 空 団 司 令 部 (浜 松)	防 衛 部 防 衛 班 長	基 地 当 直 幹 部	053-472-1111 〈防災行政無線 843-9106〉	3230 3231	3224 3225
第 11 飛 行 教 育 団 (静 浜)	団 司 令 部 計 画 班 長	基 地 当 直 幹 部	054-622-1234 〈防災行政無線 154-9000〉	231	225

(自 衛 隊) R4.4.1

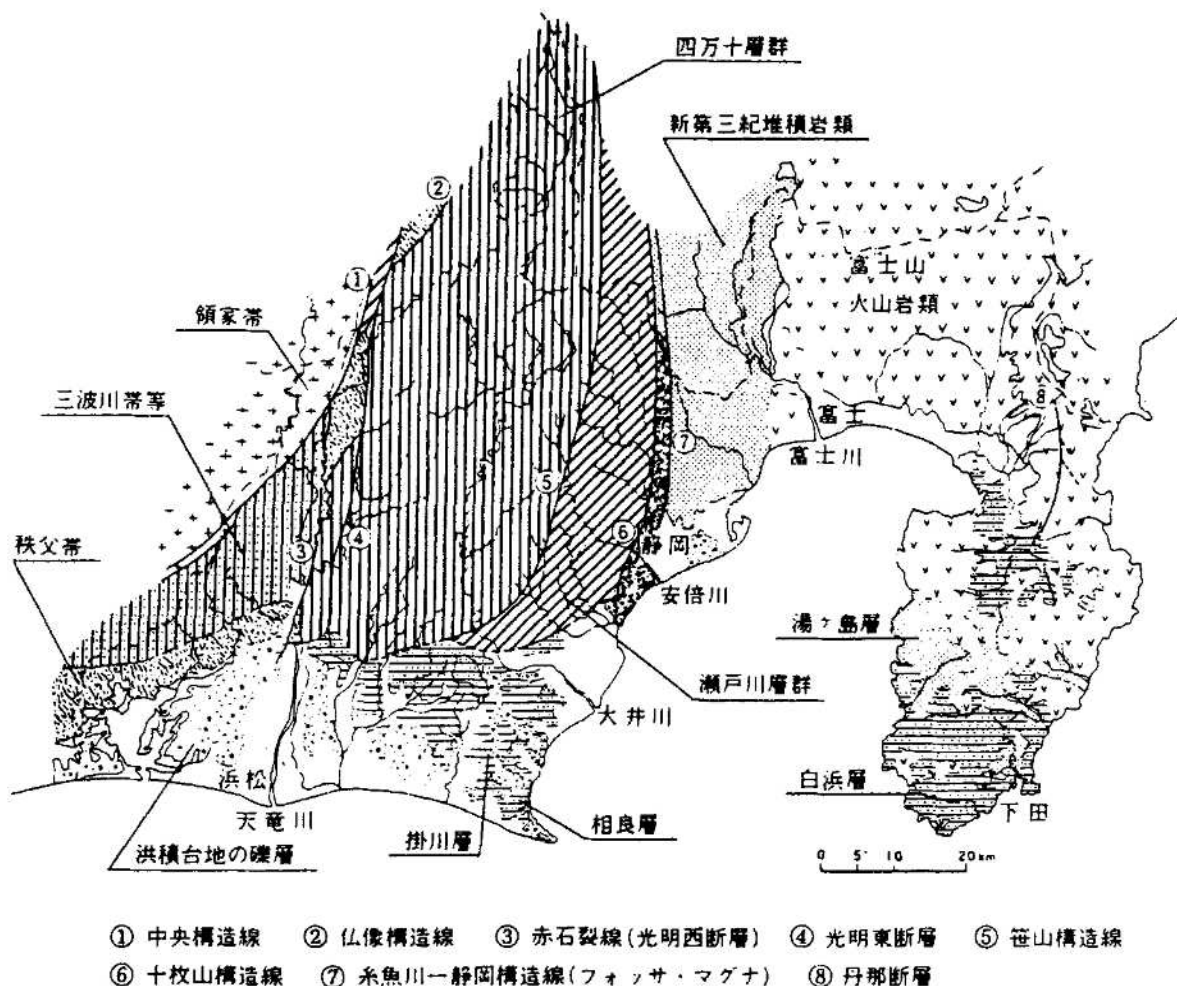
2-1 地質概要

(県危機情報課)

静岡県には北から南に、領家・三波川・秩父帯、四万十帯、瀬戸川帯および大井川・丹那帯の4褶曲帯が形成時期の順に並び、これらを南北に横切って、赤石裂線や糸魚川—静岡構造線で代表されるフォッサマグナの断層群がある。さらに、フォッサマグナ沿いに富士山や伊豆半島の新しい火山群など地熱活動の盛んな地域をかかえ、日本列島を形づくっている主要な地質構造要素のほとんどがここに集約されている。

フォッサマグナの断層群中には現在活動中のものもあると考えられ、また海岸沿いの日本平や小笠山丘陵などの新しい隆起帯は現在も活発に変動していると見られ、これらを含む第四紀の地殻変動は、地震の予知とも関連して大いに注目される。一方、赤石山地では風化作用と新期の地殻変動によって、大きな山地災害が見られ、国土保全と資源の確保の上で解決すべき問題をかかえている。

このように静岡県の地質は、現在進行している地質学的諸現象が、実生活にも大きなかかわりを持っている点で、きわめて重要である。



2-2 過去の顕著な災害

(県危機情報課・県危機対策課)

1 風水害

〔戦後における主な台風及び豪雨による災害〕

昭和23年9月16日 アイオン台風

被害状況				気象概況	
死者	7人	堤防	66箇所	マーシャル諸島で発生した台風は発達しながら北上し、16日朝には潮岬沖南方海上に達し、中心気圧945hpaを示した。台風はその後進路を北東に変えて伊豆南端をかすめて三陸沖に去った。県下は16日昼ごろから夕刻にかけて暴風雨となった。	
負傷者	4人	船沈没	10隻		
行方不明者	1人	船破損	59隻		
住家	全壊	184戸			
	半壊	208戸			
	流失	119戸			
	床上浸水	2,723戸			
	床下浸水	7,653戸			
田流失	2ha				
田畑冠水	265ha				
道路	91箇所				
橋	42箇所				

昭和27年6月23日 ダイナ台風

死者	25人	冠田	4,407ha	台風は沖縄の西方海上を北東進し、23日足摺岬を通り、東北東に向きを変え20時ごろ紀伊半島南部に上陸し、東海道、関東南部を通過中、銚子沖に去った。県下を通過中のころ1時間雨量20～60mmの強い雨が降り、大井川中流域、伊豆天城山東海岸にかけて多く、200mmを越した。最大風速は御前崎南々西39.1m/s、石廊崎南西36.8m/sであった。	
負傷者	5人	水畑	1,531ha		
行方不明者	20人	道路	153箇所		
住家	全壊	20戸	橋		133箇所
	半壊	48戸	堤防		106箇所
	流失	21戸	山(がけ)		163箇所
	床上浸水	2,005戸	崩れ		
	床下浸水	6,433戸	鉄道		74箇所
非住家	143戸	船沈没	2隻		
流埋	田	206ha	船流失		42隻
	畑	51ha	船破損	45隻	

昭和28年9月25日 台風13号

死者	1人	道路	24箇所	台風は23日沖大東島の南東にあつて中心気圧915hpa最大風速60m/sとなった。台風の北上にともなつて本州の海岸にあつた前線は活発となり各地で雨となった。その後台風は北上を続け、25日15時に紀伊半島に上陸。三重、愛知、長野県を通り奥羽地方へ去つた。	
負傷者	13人	橋	97箇所		
住家	全壊	37戸	堤防		97箇所
	半壊	120戸	山(がけ)		25箇所
	流失	23戸	崩れ		
	床上浸水	1,642戸	鉄道		9箇所
	床下浸水	4,954戸	船沈没		3隻
非住家	276戸	船破損	46隻		
流埋	田	147ha	通信		391箇所
	畑	3ha	木材流出		434m ³
冠水	田	9,188ha			
	畑	604ha			

昭和 29 年 9 月 18 日 台風 14 号

死者		24 人	道路	330 箇所	マリアナ諸島東方洋上に発生した台風は西に進み次第に北西に転向、17 日には室戸岬南方 600km の海上に達し、中心気圧 960hpa を示した。その後、北東に向きを変え紀伊半島の南端をかすめ 18 日 21 時には御前崎付近に上陸し、駿河湾、伊豆半島を横切って銚子付近から東方海上に抜けた。17 日夜半から 18 日午後にかけて風雨が強まり最大風速は御前崎東南東 22m/s、石廊崎南々東 19.6m/s を記録し、雨量は山間部で 300~450mm に達し、河川は増水した。
負傷者		32 人		橋	
住家	全壊	31 戸	堤防	286 箇所	
	半壊	90 戸	山(がけ)	201 箇所	
	流失	12 戸	崩れ	23 箇所	
	床上浸水	2,670 戸	鉄道		
床下浸水	16,966 戸	船舶	沈没	20 隻	
非住家		658 戸	流失	2 隻	
流埋	田畑	138ha	破損	7 隻	
	田畑	116ha	通信施設	106 箇所	
冠水	田畑	7,875ha	木材流出	95m ³	
	田畑	2,134ha			

昭和 33 年 7 月 23 日 台風 11 号

死者		6 人	冠水	4,439ha	台風はトラック島付近に発生し、南大東島付近を通過し、北東に進路をかえ 23 日 6 時御前崎付近に上陸、富士山付近から東京都西部へ抜けた。20 日夜から雨が降り出し、21 日から 23 日にかけて風雨が強く、雨量は天城山 564mm、大間川 378mm、大川 355mm に達し、最大風速は石廊崎南 29.8 m/s を観測した。	
負傷者		4 人	田畑	452ha		
行方不明者		3 人	道路	141 箇所		
住家	全壊	11 戸	橋	42 箇所		
	半壊	62 戸	山(がけ)	98 箇所		
	流失	16 戸	崩れ	39 箇所		
	床上浸水	938 戸	堤防	3 箇所		
床下浸水	6,131 戸	鉄道	1 隻			
非住家		27 戸	船舶	通信施設		90 回線
流埋	田畑	144ha	木材流出	42m ³		
	田畑	5ha				

昭和 33 年 9 月 26 日 (狩野川台風)

死者		701 人	道路	330 箇所	グアム島付近に発生した台風は次第に発達し、最盛期には中心気圧 877hpa を示した。台風は沖縄の東南東 650km 付近で進路を北々東に変え、26 日 22 時すぎ伊豆南端をかすめて関東に上陸し急速に衰弱した。県下は 25 日昼ごろから雨となり 26 日 20 時から 23 時ごろにかけ狩野川の上流一帯にわたり 1 時間 80~120mm の豪雨があり湯ヶ島で総雨量 753mm に達した。水位は狩野川徳倉で 26 日 22 時 30 分に 7.75m、千歳橋で 26 日 22 時に 10m に達し、支流来光川、大場川、柿沢川とも最高水位 5m を越した。最大風速は伊豆地方で 20m/s を越し、石廊崎東 37.8m/s、御前崎北北東 26.1m/s を観測した。海岸ではうねりが高く、田子浦港 11.6m、御前崎、舞阪港で 7m の波高を観測した。
負傷者		813 人		橋	
行方不明者		339 人	堤防	153 箇所	
住家	全壊	353 戸	山(がけ)	89 箇所	
	半壊	754 戸	崩れ	20 箇所	
	流失	722 戸	鉄道		
	床上浸水	7,930 戸	船舶	沈没	
床下浸水	8,166 戸	破損	7 隻		
非住家		1,030 戸	通信施設	2,602 回線	
流埋	田畑	782ha	木材流出	8m ³	
	田畑	276ha			
冠水	田畑	1,432ha			
	田畑	265ha			

昭和34年8月14日 台風7号

死者		11人	道路	250箇所	前線が本州南岸に停滞し、11日から13日にかけて時々強い雨が降り大井川中流域で250mm以上、平地で50～80mmの雨量があった。一方台風は硫黄島の北方海上から北に進み、かなり速い速度で伊豆西岸をかすめ14日6時過ぎ駿河湾から富士川河口付近に上陸し、山梨県に抜けた。中心付近の風は猛烈で最大風速は石廊崎東48.8m/s、御前崎西29.6m/sを観測した。雨は14日の明け方にかけて強く降り台風による雨量は天城山200mm安倍川、藁科川中流、大井川中流域で300mmを越え特に梅ヶ島で470mmを観測した。
負傷者		399人		橋	
行方不明者		3人	堤防	129箇所	
住家	全壊	629戸	山(がけ)	242箇所	
	半壊	1,721戸	崩れ	7箇所	
	流失	21戸	鉄道		
	床上浸水	2,040戸	船舶	沈没	
床下浸水	4,009戸	流失		2隻	
非住家		6,683戸	破損	84隻	
流埋	田畑	149ha	通信施設	7,177回線	
		70ha			
冠水	田畑	2,965ha			
		662ha			

昭和34年9月26日 台風15号(伊勢湾台風)

死者		5人	台風は硫黄島西方海上で第一級の台風に発生し、北々西から北に進み、26日18時30分ごろ紀伊半島南部に上陸した。この時の中心気圧は929.5hpaであったが上陸後もあまり勢力が衰えず岐阜付近を通り高田の西方を経て秋田沖に去った。26日夕刻ごろから風雨が強まり最大風速は御前崎南々西35.6m/s、石廊崎南西29.2m/s、浜松南々西26.4m/sを観測し、所々に突風があった。雨は26日16時から24時にかけて強く降り山岳方面で1時間雨量は30～35mmに達し大井川、天竜川中流域で200～350mm、また台風の最も接近した時刻が満潮時と一致したため海岸では高潮や高波が起こった。
負傷者		56人	
行方不明者		1人	
住家	全壊	441戸	
	半壊	1,635戸	
	流失	11戸	
	床上浸水	403戸	
	床下浸水	1,688戸	
非住家		4,192戸	
流埋	田畑	52ha	
		34ha	
冠水	田畑	1,810ha	
		1,522ha	

昭和40年9月17日 台風24号

死者		6人	冠水	田畑	578ha	カロリン諸島に発生した台風は、15日午後沖縄の南海上を北東進し、最大風速55m/s、500km以内は15m/sの暴風となった。台風は17日午後9時伊良湖付近を通り長野県へ進んだ。西部や山間部では特に雨が強く1時間30～50mmの強い雨が降り17日の雨量は西部の山間部や大井川上流域で200～250mmとなったが中部から東の平野部では30～50mm程度であった。最大風速は御前崎南西30.3m/s、浜松南東20.3m/sであった。
負傷者		7人		田畑	357ha	
行方不明者		2人	道路	146箇所		
住家	全壊	23戸	堤防	16箇所		
	半壊	48戸	橋	34箇所		
	流失	9戸	山(がけ)	130箇所		
	床上浸水	453戸	崩れ	9箇所		
床下浸水	2,057戸	鉄道				
非住家		378戸	船舶	沈没	3隻	
流埋	田畑	1ha		流失	7隻	
				破損	41隻	
		3ha	通信施設	3,546回線		

昭和41年9月25日 台風26号

死者	49人	橋 山(がけ) 崩れ 鉄道 通信施設	2箇所	台風は24日硫黄島の南西海上を北上し、21時すぎに県下は暴風圏に入った。25日0時には中心示度960hpaを示し御前崎の西に上陸し進路を北々東に変え梅ヶ島付近を通って本州を横断し、25日三陸沖へ抜けた。県下にとっては最も悪いコースでしかも上陸まで勢力が衰えなかったので御前崎で最大瞬間風速東北東50.5m/s、静岡で40m/s、三島で南東42m/sを記録した。平野部の静岡で1時間66.1mm、御前崎63.6mmの強い雨が天城や山間部で200~400mmとなった。	
負傷者	227人		84箇所		
行方不明者	7人		4箇所		
住家	全壊	386戸	19,048回線		
	半壊	1,287戸	船舶 沈没 流失 破損		
	流失	9戸			13隻
	床上浸水	163戸			14隻
床下浸水	1,836戸	41隻			
非住家	3,609戸				
流埋	田	11.2ha			
	畑	8.3ha			
冠水	田	5,411.5ha			
	畑	73ha			
道路	38箇所				
堤防	12箇所				

昭和46年8月31日 台風23号

死者	1人	道路 橋 河川 崖崩れ 通信施設	501箇所	南鳥島付近に発生した台風は、九州の南海上で急に発達し、中心気圧は915hpaとなった。台風は九州の大隅半島に上陸した後、進路を北東に転じ、次第に衰えながら四国の土佐湾から淡路島付近、志摩半島、静岡県南岸を通り房総沖に去った。静岡県南岸を通過するときは985hpaとなったため、風による被害は少なかったが、雨は県下全域に150mmから300mm、多い所で400mmとなった。そのため被害はほぼ県下全域に発生した。	
負傷者	8人		68箇所		
住家	全壊		15戸		213箇所
	半壊		65戸		358箇所
	一部破損		174戸		836箇所
	床上浸水	1,458戸			
床下浸水	9,446戸				
非住家	116戸				
流埋	田	14.5ha			
	畑	26.5ha			
冠水	田	4,836.3ha			
	畑	767.5ha			

昭和49年7月7日~8日 台風8号(七夕豪雨)

死者	44人	文教施設 道路 橋 河川 砂防 水道 崖崩れ 鉄道 船舶 通信施設	72箇所	沖の鳥島付近の近海で発生した台風8号は次第に北上して7月7日夕刻ごろには対馬海峡を通過し、日本海中部に達した。一方梅雨前線は東海地方西部にあったが、台風8号の北東進にあわせ7月7日夕刻ごろには、静岡県の西部県境に達した。県境に達した梅雨前線の動きは非常に遅く本県を通過するのに7~10時間を要した。その時時間雨量50~70mmの強雨が継続し、24時間降雨量は508mmという気象台創設以来の大記録となり、この大雨で県下各地では、山・がけ崩れ、河川洪水により冠水などの災害が続出し、特に静岡、清水を中心に大水害となった。	
負傷者	241人		3,381箇所		
住家	全壊		241戸		210箇所
	半壊		350戸		2,933箇所
	一部破損		152戸		77箇所
	床上浸水		26,452戸		92箇所
床下浸水	54,092戸		4,299箇所		7箇所
非住家	2,221戸				12隻
流埋	田		845.74ha		1,791回線
	畑		515.82ha		
冠水	田	8,082.34ha			
	畑	2,150.74ha			

昭和50年10月7日～8日 低気圧及び前線による大雨

死者	6人	道路 橋	918箇所	上海沖から東進してきた低気圧は、7日に瀬戸内海西部に達した。この低気圧から東にのびる温暖前線により静岡県では7日の夜半を中心に沿岸部で強風があった。強風をもたらした低気圧は、進路を東から北東に変えて日本海に入り、その後も北東進した。これにより温暖前線は8日6時には、県の北方に去り、強雨はおさまったがその後、後続する寒冷前線が通過するまでは、降雨があり12時過ぎには県全般に雨がやんだ。しかし強雨により大きな被害をもたらした。	
負傷者	18人		86箇所		
住家	全壊	4戸	堤防		707箇所
	半壊	11戸	崖崩れ		428箇所
	一部破損	49戸	船舶		7隻
	床上浸水	2,864戸	水道施設		50箇所
床下浸水	16,572戸				
非住家	45戸				
流埋	田	52.67ha			
	畑	23.68ha			
冠水	田	4,769.2ha			
	畑	772.56ha			

昭和51年7月11日 豪雨

死者	16人	文教施設	10箇所	7月10日黄海にあった低気圧が日本海西部に入った。一方、三陸はるか東海上にあった高気圧(1024hpa)が次第に強まり、本州東海上に根強く張り出していたため、静岡県西方に位置していた気圧の谷の東進を遅らせ大雨の原因となった。11日には、梅雨前線が北上し伊豆方面に大雨を降らせた。総雨量は伊豆半島400mm～500mm、県西部200mm～250mm、山間部50mm～100mm。	
負傷者	70人		595箇所		
住家	全壊	35戸	橋		61箇所
	半壊	40戸	河川		840箇所
	一部破損	52戸	港湾		5箇所
	床上浸水	2,342戸	砂防		4箇所
床下浸水	5,067戸	水道	91箇所		
流埋	田	117.64ha	崖崩れ		552箇所
	畑	85.08ha	船舶		14隻
冠水	田	3,182.90ha	通信施設		3,846回線
	畑	283.04ha			

昭和57年7月31日から8月3日にかけて台風第10号と低気圧による大雨と暴風

死者	2人	文教施設	(61校)70箇所	7月24日南鳥島付近で発生した台風第10号は、大型で並みの勢力(970hpa)を保ちながら、8月2日0時ごろ渥美半島西部に上陸し中部、北陸地方を横断し2日未明には日本海に達し、台風による雨はあがった。台風通過後の8月3日には小さな低気圧が太平洋沿岸を通過し、2日夜半から3日夜まで再び大雨となったので県下は記録的な豪雨となった。静岡市井川、梅ヶ島地区では、道路が寸断され、地区住民、観光客、登山客等が孤立した。(降り始めからの総雨量)梅ヶ島 1056ミリ 井川 853ミリ 本川根 742ミリ 熊 660ミリ	
行方不明者	1人		1箇所		
負傷者	12人	病院	1,464箇所		
住家	全壊	11戸	橋りょう		30箇所
	半壊	32戸	河川		1,738箇所
	一部破損	604戸	港湾		4箇所
	床上浸水	875戸	砂防		69箇所
床下浸水	2,607戸	水道	177箇所		
非住家	805戸	清掃施設	4箇所		
流埋	田	85.4ha	崖崩れ		1,475箇所
	畑	286.4ha	鉄道不通	9箇所	
冠水	田	570ha	船舶被害	2隻	
	畑	619ha	通信被害	399回線	
			海岸	2箇所	

昭和57年9月12～13日 前線と台風18号による大雨と暴風

死者	14人	文教施設	139箇所	9月6日グアム島付近で発生した台風第18号は、大型で並の勢力(968ha)を保ちながら、12日18時に、御前崎西方へ上陸し、東日本を横断した。 本州南岸沿いに停滞していた前線が、台風の接近に伴い活発化し11日夜半から12日午前にかけて県下に大雨を降らせた。牧ノ原では12日16時から17時の1時間に91ミリの豪雨が降った。 (降り始めからの総雨量) 天城山 676ミリ 牧ノ原 628ミリ 掛川 504ミリ 御前崎 459ミリ	
行方不明者	1人	病院	7箇所		
負傷者	45人	道路	975箇所		
住家	全壊	51戸	橋りょう		48箇所
	半壊	31戸	河川		1,539箇所
	一部破損	173戸	港湾		7箇所
	床上浸水	6,578戸	砂防		21箇所
	床下浸水	15,328戸	水道		222箇所
非住家	4,084戸	清掃施設	5箇所		
流埋	田	163.1ha	崖崩れ		2,939箇所
	畑	204.8ha	鉄道不通	6箇所	
冠水	田	5,036.1ha	船舶被害	5隻	
	畑	576.6ha	通信被害	784回線	
		海岸	5箇所		

昭和58年9月25日から29日にかけての台風第10号に伴う静岡県の大雨

死者	4人	文教施設	7箇所	9月20日グアム島付近で発生した台風第10号は、28日長崎市付近に上陸し、高知県宿毛市付近で温帯低気圧に弱まった。この低気圧は、前線を伴ってその後も東進を続け県下に大雨を降らせた。 水窪ダムでは1時間に94ミリの豪雨となり、磐田郡水窪町では町道白倉川線が崩土で寸断され向島地区が孤立した。 (降り始めからの総雨量) 本川根 346ミリ 梅ヶ島 321ミリ 熊 286ミリ 天城山 282ミリ	
負傷者	1人	道路	215箇所		
住家	全壊	3戸	橋りょう		12箇所
	一部損壊	3戸	河川		95箇所
	床上浸水	304戸	港湾		1箇所
	床上浸水	1,306戸	砂防		1箇所
	床下浸水	1,306戸	水道		10箇所
非住家	1戸	崖崩れ	39箇所		
流埋	田	0.69ha	通信被害		127回線
	畑	0.85ha			
冠水	田	263ha			
	畑	46ha			

平成3年9月10～11日 伊豆半島南部の集中豪雨

死者	4人	台風15号が東海上に去った10日は、日本海に大陸から移動してきた高気圧、南東海上には太平洋高気圧があり、これらの高気圧にはさまれて関東から東海の南海上は気圧の谷となっていた。この気圧の谷となっていた静岡県の南海上で15時に低気圧が発生した。 このため伊豆地方では、日本海に中心をもつ高気圧から流れ込む乾いた冷たい東風と、太平洋高気圧から流れ込む暖かい湿った南風とが収束し発達した雨雲の発生しやすい気象状態となっていた。また、9時から21時にかけ上空に寒気が入ったため、大気の状態もやや不安定であった。 特に、伊豆南部は南風のやや強い風が吹き、標高1200～1400mの天城山地の南斜面に衝突し、地形の効果も加わって雨雲が発達、また、雨雲を移動させる上空の風も弱かったため停滞し、局地的な大雨となった。 10日6時ごろから伊豆地方で降り始めた雨は、12時過ぎから強まり夜半頃までに継続的に降り続き、稲取で22時～23時の1時間に53mm、天城山では15時～18時に3時間で64mm、20時～23時の3時間で73mmを記録し、降り始めから11日5時までの総降水量天城山で252mm、稲取で131mmとなった。 一方、レーダー観測でも伊豆地方には12時～17時、20時～24時にかけ雲頂高度4000～6000mの雨雲が停滞していた。 なお、伊豆地方では、8日～9日にかけて八丈島の南海上を通過し東海上に抜けた台風15号の影響により、7日の夜から9日の昼頃にかけて、天城山で283mm、稲取で158mmの降水量を記録し、地盤が軟弱な状態であった。 (静岡地方気象台 災害時気象速報より抜粋)	
負傷者	7人		
住家	全壊		27戸
	半壊		12戸
	一部破損		14戸
	床上浸水		164戸
	床下浸水		291戸
非住家	116戸		
流埋	田		25.9ha
	畑		20.3ha
冠水	田	35.3ha	
	畑	ha	
道路	229箇所		
橋りょう	8箇所		
河川	268箇所		
港湾	3箇所		
砂防	3箇所		
崖崩れ	83箇所		
鉄道不通	2箇所		
水道	2,101戸		
電話	159回線		
電気	4,600戸		

平成 16 年 10 月 9 日 台風 22 号による大雨と暴風

死者	5 人	文教施設	86 箇所	10 月 4 日フィリピンの東の海上で発生した台風第 22 号は、沖の鳥島の南海上で「非常に強い台風」となり、中心気圧 920ha、最大風速 50m/s まで発達し、その後も非常に強い勢力を保ったまま、9 日 16 時に、伊豆半島へ上陸した。 県内は 9 日午後には暴風域に入り、石廊崎では最大瞬間風速 67.6m/s の非常に強い風を観測した。また、台風の北上に伴い東海地方から関東地方にかけて停滞していた前線の活動が活発となり、御前崎では 9 日 15 時に 1 時間 89 ミリの豪雨を記録した。 (降り始めからの総雨量) 御前崎 420.5 ミリ 清水 397 ミリ (東京管区气象台 平成 16 年 10 月台風第 22 号に関する気象速報より抜粋)	
行方不明者	1 人	病院	1 箇所		
負傷者	100 人	道路	1,128 箇所		
住家	全壊	130 戸	橋りょう		17 箇所
	半壊	277 戸	河川		310 箇所
	一部破損	3,913 戸	港湾		6 箇所
	床上浸水	310 戸	砂防		3 箇所
床下浸水	1,041 戸	水道	3,823 箇所		
非住家	1,343 戸	清掃施設	6 箇所		
流埋	田	3.38ha	崖崩れ		708 箇所
	畑	203.94ha	鉄道不通	6 箇所	
冠水	田	2.77ha	船舶被害	15 隻	
	畑	42.07ha	電話	2800 回線	
		電気	135,920 戸		
		ガス	1 戸		
		ブロック塀	8 箇所		

平成 22 年 9 月 8 日 台風 9 号による大雨

死者	0 人	文教施設	10 箇所	9 月 3 日沖ノ鳥島付近で発生した台風 9 号は、6 日には南西諸島から東シナ海を北上し、対馬海峡から山陰沖を東北東から東に進み、8 日 11 時に福島県敦賀市付近に上陸した。上陸時の中心気圧は 1004hPa、中心付近の最大風速は 18m/s であった。その後、中部地方を南東に進み、8 日 15 時に静岡県で熱帯低気圧に変わり、夜、関東の東海上を抜けた。 県内は、台風の接近で 7 日 18 時頃から雨が降り出し、8 日 7 時頃から雨雲が発達し、9 時に井川で時間 56.5 ミリ、御殿場で 46 ミリ、10 時には小山町付近で時間 110 ミリの記録的な大雨を観測した。この後も東部で猛烈な雨が降り続き、小山町付近は 16 時にも時間 120 ミリの記録的な大雨を観測した。 (降り始めからの総雨量) 井川 224.5 ミリ 御殿場 218 ミリ (静岡地方气象台 平成 22 年台風第 9 号に関する静岡県気象速報より抜粋) ※被害状況は平成 22 年 10 月 8 日 16 時現在	
行方不明者	0 人	道路・橋りょう	36 箇所		
負傷者	1 人	河川	91 箇所		
住家	全壊	6 戸	港湾		2 箇所
	大規模半壊	7 戸	砂防・急傾斜		20 箇所
	半壊	18 戸	水道		1,500 戸
	一部破損	0 戸	土砂災害		40 箇所
床上浸水	15 戸	農地農業用施設	315 箇所		
床下浸水	115 戸	森林	129 箇所		
非住家	23 戸	鉄道不通	1 箇所		
流埋	田	8.5ha	電気	690 戸	
	わさび田	2.7ha			
冠水	田	171ha			
	畑	ha			

平成 23 年 9 月 19 日 台風 15 号による大雨

死者	3 人	文教施設	144 箇所	9 月 13 日に日本の南で発生した台風 15 号は、16 日から 19 日にかけて南大東島の近海で停滞した後、19 日に奄美大島近海で強い勢力、20 日夜遅くには四国沖で非常に強い勢力となり、強い勢力を維持しながら 21 日 14 時頃に浜松市付近に上陸した。 県内では、19 日 19 時頃から山間部を中心に雨が降り始め、台風が浜松市付近に上陸した 21 日 14 時頃を中心に、非常に激しい雨と強い風に見舞われ、山間部を中心に総雨量が 400~550 ミリを超える大雨となり、県内各地で 30m/秒を上回る最大瞬間風速を観測	
行方不明者	0 人	道路・橋りょう	323 箇所		
負傷者	155 人	河川	353 箇所		
住家	全壊	2 戸	港湾		12 箇所
	大規模半壊	戸	砂防・急傾斜		11 箇所
	半壊	8 戸	水道		11,391 戸
	一部破損	1,504 戸	土砂災害		69 箇所
床上浸水	34 戸	農地農業用施設	54 箇所		
床下浸水	73 戸	森林	58 箇所		
非住家	189 戸	鉄道不通	3 箇所		
流埋	田	3.98ha	船舶被害	4 隻	
	畑	4.03ha	電話	80,002 回線	
冠水	田	1ha	電気	340,100 戸	
	畑	390ha	ブロック塀	16 箇所	

平成 25 年 7 月 18 日 西伊豆町における集中豪雨

死者	0 人	文教施設 道路・橋りょう 河川 電気	3 箇所	日本海にある低気圧に向かって、暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、7 月 17 日夜から 7 月 18 日にかけて大気が非常に不安定な状況となった。 県内では、17 日夜には中部南を中心に、18 日未明から朝にかけて伊豆を中心に大雨となった。稲取で時間雨量 78 ミリ、土肥で時間雨量 60.5 ミリの非常に激しい雨を観測した。中でも西伊豆町宇久須では 3 時～4 時にかけて時間雨量 98 ミリを観測した。
行方不明者	0 人		6 箇所	
負傷者	0 人		19 箇所	
住家	全壊	1 戸	2300 戸	
	半壊	17 戸		
	一部破損	7 戸		
	床上浸水	43 戸		
	床下浸水	319 戸		
非住家	50 戸			
流埋	田	0ha		
	畑	1ha		

平成 26 年 10 月 5 日 台風第 18 号による大雨

死者	0 人	台風第 18 号は、9 月 29 日 15 時にトラック諸島近海で発生し、10 月 2 日 09 時にはフィリピンの東で大型で非常に強い台風となった。4 日 09 時には南大東島の東南東の海上に進み、次第に進路を北に変え、5 日 09 時には屋久島の南南東の海上で大型で強い台風となった。 その後、進路を北から北東に変え四国の南を進み、5 日 21 時には足摺岬の南の海上、6 日 03 時には潮岬の南南西の海上、6 日 06 時には、尾鷲市の東南東の海上を北東に進んだ。6 日 08 時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸し、その後、速度を速め 6 日 09 時には静岡市付近を北東に進み、昼過ぎには関東の東海上に達し、6 日 21 時には日本の東で温帯低気圧に変わった。 この台風と前線の影響により、静岡県では 5 日未明から雨が降り始め、5 日夜には雨が強まり 6 日昼前にかけて大雨となった。伊豆、中部では降り始めからの降水量が 400 ミリを超え、1 時間に 80 ミリ以上の猛烈な雨が降った所があった。 また、台風の接近により沿岸部を中心に風が強まり、石廊崎では猛烈な風を観測した。海上では 5 日午後から波が高くなり、6 日には石廊崎で 12.8 メートルの猛烈なしけとなった。 (静岡地方気象台 平成 26 年台風第 18 号に関する静岡県気象速報より抜粋)	
行方不明者	0 人		
負傷者	8 人		
住家	全壊		0 戸
	半壊		8 戸
	一部破損		26 戸
	床上浸水		623 戸
	床下浸水		1348 戸
非住家	0 戸		
流埋	田		0ha
	畑	1ha	
道路・橋りょう	519 箇所		
河川	437 箇所		
港湾	6 箇所		
砂防	15 箇所		
崖くずれ	45 箇所		
鉄道不通	5 箇所		
被害船舶	5 箇所		
水道	632 箇所		
電気	23890 戸		
ブロック塀	4 箇所		

平成 27 年 9 月 7 日 台風第 18 号と前線による大雨

死者	0 人	文教施設 道路・橋りょう 河川 崖くずれ 電気	1 箇所	東日本では、太平洋沿岸に停滞する前線の影響により、大気の状態が不安定となった。また、台風第 18 号が 9 月 7 日 03 時に日本の南で発生し、ゆっくりした速さで北北西に進んだ。8 日 03 時に硫黄島の西北西を時速 25 キロで北へ進み、9 日 01 時に八丈島の西南西に達した。9 日 07 時に豊橋市の南を北北西に進んだ後、10 時過ぎに愛知県知多半島に上陸した。その後、9 日 11 時に名古屋市付近、13 時に小松市の南南東を北北西に進んだ後、21 時に日本海中部で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、前線の影響により、6 日朝から雨となり、その後 9 日は台風の影響により雨が継続し、大雨となった。伊豆では降り始めからの降水量が 400 ミリを超え、1 時間に 40 ミリ以上の激しい雨となった所があった。 (静岡地方気象台 平成 27 年台風第 18 号と前線による大雨に関する静岡県気象速報より抜粋)	
行方不明者	0 人		70 箇所		
負傷者	5 人		5 箇所		
住家	全壊		0 戸		24 箇所
	半壊		0 戸		3580 戸
	一部破損		1 戸		
	床上浸水		22 戸		
	床下浸水		90 戸		
非住家	0 戸				
流埋	田		0.07ha		
	畑	0ha			

平成 29 年 10 月 22 日 台風第 21 号による大雨

死者	0 人	10 月 16 日 03 時にカロリン諸島で発生した台風第 21 号は、発達しながらフィリピンの東海上を北上し、21 日には超大型で非常に強い勢力となり、22 日にかけて非常に強い勢力を保ったまま、次第に速度を上げて日本の南を北上した。台風は、22 日夜遅くには東海道沖を北北東に進んだ後、23 日 03 時頃に超大型の強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま東海地方及び関東地方を北東に進み、23 日 09 時には福島県沖に抜け、23 日 15 時に北海道の東で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、台風の接近と前線の影響により、21 日未明から雨が降り始め、台風が通過した 22 日夜遅くから 23 日明け方にかけて非常に激しい雨となった。特に天城山では、降り始めからの総降水量が 387.0 ミリとなった。 また、22 日夜遅くから 23 日にかけて非常に強い風となった。台風が上陸した御前崎では日最低海面気圧が 952.6hPa を観測するなど県内の広い範囲で気圧が下がった影響で、潮位が平常より上がり、沿岸部で高潮による浸水被害が発生した所があった。 (静岡地方気象台 平成 29 年台風第 21 号に関する静岡県気象速報より抜粋)
行方不明者	0 人	
負傷者	4 人	
住家	全壊 0 戸 半壊 0 戸 一部破損 12 戸 床上浸水 0 戸 床下浸水 60 戸	
非住家	3 戸	
流埋	田 畑	0ha 0ha
道路	13 箇所	
橋りょう	1 箇所	
河川	9 箇所	
崖くずれ	1 箇所	
鉄道不通	1 箇所	
電気	7,200 戸	

平成 30 年 7 月 28 日～7 月 29 日 台風第 12 号による大雨と暴風

死者	0 人	7 月 25 日 03 時に日本の南海上で発生した台風第 12 号は、26 日 21 時には強い勢力となり 27 日にかけて発達しながら日本の南を北上し、28 日は次第に進路を西よりに変え伊豆諸島付近を北西に進んだ。台風は、暴風域を伴ったまま、強い勢力を維持し東海道沖を西に進み、29 日 01 時頃に三重県伊勢市付近に上陸した。その後、西日本を西に進み、29 日 17 時半頃に福岡県豊前市付近に上陸し、速度を落としながら九州を南西に進んだ後、九州の西海上を南に進んだ。 静岡県では、台風の接近の影響により、28 日昼過ぎから 29 日未明にかけて強風が吹き、28 日夜には暴風となった所があった。また、27 日夜遅くから雨が降り始め、28 日夕方から 29 日未明にかけては激しい雨となった所があった。特に伊豆市天城山では、降り始めからの総降水量が 175.5 ミリとなった。 海上では、28 日午後から波やうねりが高くなり、石廊崎では 4 メートルを超えるしけとなった。 (静岡地方気象台 平成 30 年台風第 12 号に関する静岡県気象速報より抜粋)
行方不明者	0 人	
負傷者	9 人	
住家	全壊 0 戸 半壊 0 戸 一部破損 36 戸 床上浸水 0 戸 床下浸水 0 戸	
非住家	6 戸	
流埋	田 畑	0ha 0ha
学校	7 箇所	
清掃施設	2 箇所	
電気	17,900 戸	
ブロック塀	2 箇所	

平成 30 年 9 月 30 日 台風第 24 号による大雨と暴風

死者	0 人	9 月 21 日 21 時にマリアナ諸島で発生した台風第 24 号は、フィリピンの東海上を発達しながら西北西に進み、25 日 00 時には猛烈な台風となった。その後、大型で非常に強い台風となり沖縄の南海上を北上し、29 日は進路を東よりに変えて沖縄本島、奄美地方に接近し北東に進んだ。30 日は、次第に速度を速めながら四国の南海上を北東に進み、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して 30 日 20 時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10 月 1 日 12 時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、台風の接近の影響により、30 日夜から強風となり、夜遅くから 10 月 1 日未明にかけて広い範囲で暴風となり、猛烈な風を観測した
行方不明者	0 人	
負傷者	30 人	
住家	全壊 1 戸 半壊 9 戸 一部破損 2,703 戸 床上浸水 0 戸 床下浸水 0 戸	
非住家	209 戸	
流埋	田 畑	0ha 0ha

学 校	221 箇所	<p>所があった。台風が東北地方の太平洋側に抜ける 1 日朝まで強風となった。</p> <p>また、本州の南海上に停滞する前線が北上した影響で、29 日明け方から断続的に雨となり、台風が接近した 30 日夜から 10 月 1 日未明にかけては、山地を中心に猛烈な雨となり、降り始めからの総降水量は、静岡市井川で 315.5 ミリとなった。</p> <p>海上では、9 月 30 日から 10 月 1 日にかけて波やうねりが高くなり、石廊崎では 11 メートルを超える猛烈なしけとなった。</p> <p>(静岡地方気象台 平成 30 年台風第 24 号に関する静岡県気象速報より抜粋)</p>
病 院	2 箇所	
道 路	608 箇所	
橋りょう	1 箇所	
河 川	16 箇所	
清掃施設	12 箇所	
崖くずれ	6 箇所	
鉄道不通	1 箇所	
水 道	2,855 戸	
電 気	741,701 戸	
ブロック塀	4 箇所	

令和元年 9 月 8 日 台風第 15 号による大雨と暴風

死 者	0 人	<p>9 月 5 日 15 時頃に南鳥島近海で発生した台風第 15 号は、小笠原近海を北西に進み、8 日には向きを北よりに変え伊豆諸島北部を北北東に進んだ。9 日 03 時前に非常に強い勢力で三浦半島付近を通過、9 日 05 時前に強い勢力で千葉市付近に上陸後、関東地方を北東に進んだ。(以上、速報解析による)</p> <p>静岡県では、台風の接近の影響により、8 日夕方から強風となり、夜遅くから 9 日未明にかけて暴風となり、非常に強い風を観測した所があった。台風が茨城県の太平洋側に抜ける 9 日朝まで強風となった。</p> <p>また、台風の接近に伴い 8 日朝から断続的に雨となり、台風が接近した 8 日夜から 9 日未明にかけては、伊豆地方を中心に猛烈な雨となり、降り始めからの総降水量は、天城山で 440.5 ミリとなった。</p> <p>海上では、8 日から 9 日にかけて波やうねりが高くなり、石廊崎では 4 メートルを超えるしけとなった。</p> <p>(静岡地方気象台 令和元年台風第 15 号に関する静岡県気象速報より抜粋)</p>	
行方不明者	0 人		
負傷者	13 人		
住家	全 壊		1 戸
	半 壊		57 戸
	一部破損		585 戸
	床上浸水		5 戸
	床下浸水		4 戸
非 住 家			4 戸
流埋	田		1ha
	畑		0ha
冠水	田	27ha	
	畑	0ha	
学 校	23 箇所		
道 路	46 箇所		
橋りょう	1 箇所		
河 川	10 箇所		
崖くずれ	46 箇所		
鉄道不通	1 箇所		
水 道	7,174 戸		
電 気	48,165 戸		

令和元年 10 月 12 日 台風第 19 号による大雨と暴風

死 者	3 人	<p>10 月 6 日に南鳥島近海で発生した台風第 19 号は、マリアナ諸島を西に進みながら、7 日には大型で猛烈な台風となった。小笠原近海を北北西に進み、12 日には北よりに進路を変えて東海道沖を北北東に進んだ。12 日 19 時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13 日未明に東北地方の東海上に抜けた。(以上、速報解析による)。</p> <p>静岡県では、台風の接近の影響により、11 日夜遅くから強風となり、12 日明け方から夜遅くにかけて暴風となり、非常に強い風を観測した所があった。台風が宮城県の太平洋側に抜ける 13 日未明まで強風となった。</p> <p>また、台風の接近に伴い 11 日朝から断続的に雨となり、台風が接近した 12 日昼過ぎから夜のはじめ頃にかけては、中部、東部及び伊豆地方で猛烈な雨となった所があり、降り始めからの総降水量は、湯ヶ島で 760.0 ミリとなった。</p>	
行方不明者	0 人		
負傷者	7 人		
住家	全 壊		7 戸
	半 壊		7 戸
	一部破損		480 戸
	床上浸水		957 戸
	床下浸水		1,378 戸
非 住 家			390 戸
流埋	田		21ha
	畑		12ha
冠水	田	158ha	
	畑	13ha	

学 校	68 箇所	沿岸では、台風の接近に伴って潮位が高くなり、気象庁潮位観測点では石廊崎、御前崎、清水港、内浦で過去最高潮位記録を更新し、石廊崎で最大潮位偏差 224cm を観測した。 海上では、11 日からしけとなり、12 日には石廊崎で 13 メートルを超える猛烈なしけとなった。 (静岡地方気象台 令和元年台風第 19 号に関する静岡県気象速報より抜粋)
病 院	1 箇所	
道 路	791 箇所	
橋りょう	6 箇所	
河 川	167 箇所	
港 湾	11 箇所	
清掃施設	1 箇所	
崖くずれ	616 箇所	
鉄道不通	2 箇所	
被害船舶	36 隻	
水 道	11,283 戸	
電 気	42,620 戸	

令和 2 年 7 月 3 日～7 月 12 日 令和 2 年 7 月豪雨

死 者	1 人	7 月 3 日から 12 日にかけて中国大陸から日本のはるか東へのびる梅雨前線が本州付近に停滞し、この前線を低気圧が次々と通過した。このため、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、断続的に大雨となった。 静岡県では、4 日未明から昼前にかけて、6 日夜遅く、9 日明け方から朝、11 日夜遅くから 12 日未明にかけて、中部、西部、東部の山地を中心に非常に激しい雨となった。降り始め(7 月 3 日 12 時)から降り終わり(7 月 13 日 00 時)までの総降水量は、川根本町で 842.5 ミリとなった。 なお、7 月 8 日 07 時 40 分頃、浜松市北区新原で突風が発生し、農業用ハウスの鋼管の変形などの被害があった。このため、静岡地方気象台では職員を気象庁機動調査班(JMA Mobile Observation Team:JMA-MOT)として派遣し現地調査を行いました。 気象庁では令和 2 年 7 月 3 日からの豪雨に対して「令和 2 年 7 月豪雨」と名称を定めました。 (静岡地方気象台 令和 2 年 7 月 3 日～7 月 12 日の大雨に関する静岡県気象速報より抜粋)	
行方不明者	0 人		
負 傷 者	0 人		
住 家	全 壊		0 戸
	半 壊		0 戸
	一部破損		17 戸
	床上浸水		0 戸
	床下浸水		0 戸
非 住 家	0 戸		
流 埋	田		0.05ha
	畑		0ha
道 路	81 箇所		
河 川	3 箇所		
崖くずれ	9 箇所		
被害船舶	1 隻		
水 道	171 戸		
電 気	2,611 戸		

令和 3 年 6 月 30 日～7 月 4 日の大雨

死 者	27 人	6 月 30 日から 7 月 4 日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、断続的に雨となった。 静岡県では、2 日夜遅くから 3 日朝にかけて、遠州北、中部、東部、伊豆北の広い範囲で非常に激しい雨となり、静岡市北部では 3 日未明に猛烈な雨を解析した。降り始め(6 月 30 日 18 時)から 7 月 5 日 00 時までの総降水量は、伊豆市天城山で 571.0 ミリとなった。 なお、熱海市伊豆山地区において 7 月 3 日 10 時 30 分頃、土石流が発生し長さ 1km、最大幅 120m にわたる範囲が被災し、死者 27 名、行方不明者 1 名、被災棟数 98 棟など多大な被害をもたらした。 (静岡地方気象台令和 3 年 6 月 30 日～7 月 4 日の大雨に関する静岡県気象速報より抜粋) (被害状況は令和 4 年 4 月の消防庁報告による)	
行方不明者	1 人		
負 傷 者	4 人		
住 家	全 壊		54 戸
	半 壊		13 戸
	一部破損		42 戸
	床上浸水		144 戸
	床下浸水		205 戸
非 住 家	51 戸		
流 埋	畑		1ha
学 校	29 箇所		
道 路	110 箇所		
橋りょう	1 箇所		
河 川	51 箇所		
港 湾	5 箇所		
砂 防	1 箇所		
崖くずれ	24 箇所		
被害船舶	7 隻		
水 道	876 戸		
電 話	184 戸		
電 気	603 戸		
ガ ス	1,919 戸		
ブロック塀	1 箇所		

2 火山

静岡県内の火山活動

(1) 富士山(宝永火山噴火以降)

番号	西暦年月 (和暦)	火山活動の内容	被害の状況等
	1707年12月 (宝永4年)	宝永東海地震の49日後から2週間にわたり爆発的な噴火が起き、大量の火山灰を噴出した。	小山町須走付近で2m、神奈川県内で数十cm、東京で数cmの火山灰が積もった。
	2000年10月～2001年5月 (平成12年～平成13年)	2000年10月から2001年5月にかけて、低周波地震が多発した。	なし

(2) 伊豆東部火山群

番号	西暦年月 (和暦)	火山活動の内容	被害の状況等
	1989年7月 (平成元年)	伊東市沖合いの手石島付近の海底で噴火が生じた。	負傷者22人

3 その他の災害

- (1) 霧による災害も無視できない。特に御前崎付近の海上では、春から夏にかけて20日内外の霧日数があり、船舶が遭難することが多い。

昭和40年には、海上事故154隻のうち18隻が濃霧のため、御前崎沖から伊豆沖にかけて、衝突または座礁となっている。

陸上においても、箱根峠や御殿場付近の霧のため、交通事故が起きているが数は少ない。

- (2) 雷による被害は比較的少ない。

雷は、低気圧の前線にともなった界雷と、夏の熱雷がある。界雷は時間的に短い、熱雷は時間が長く、北部山岳や東部で落雷による送電事故が多い。また雷雲による降ひょうのため農作物の被害も時々ある。

- (3) 霜による害は主として晩霜によっておこる。

霜による被害は、主として茶に多い。年により生長度が異なるため、その被害度も異なるが、南部の茶は被害を受けやすい。

- (4) 山岳遭難

昭和40年1月10日、南アルプス荒川岳(3,146m)付近において東京昭和山岳会員6人が表層なだれにより全員死亡し、国立公園指定まもない南アルプスの警鐘となった。

昭和47年3月19日から20日にかけて日本海を通過した低気圧の影響により、富士山では暴風雨となり、大なだれが発生した。このため登山中の24人が疲労による凍死あるいはなだれにより死亡し、春山の恐ろしさを示した遭難事故となった。

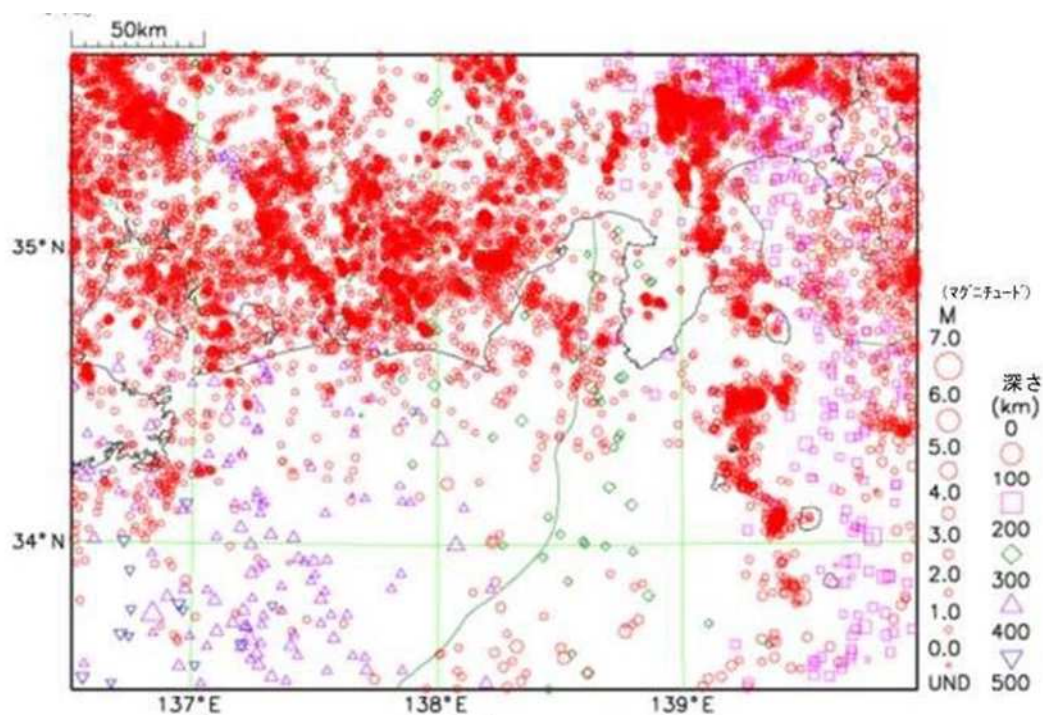
- (5) 航空機事故

イギリスBOAC所属ボーイング707型旅客機は昭和41年3月5日午後1時58分羽田空港から香港に向け出発したが、快晴の富士山上空を有視界飛行中乱気流により空中分解、御殿場市太郎坊付近に墜落、乗客、乗務員あわせて124人全員が死亡した。

2-3 最近の東海地域における地殻変動

(県危機情報課)

静岡県周辺の地震活動 (静岡地方気象台作成)
2020年1月1日～12月31日

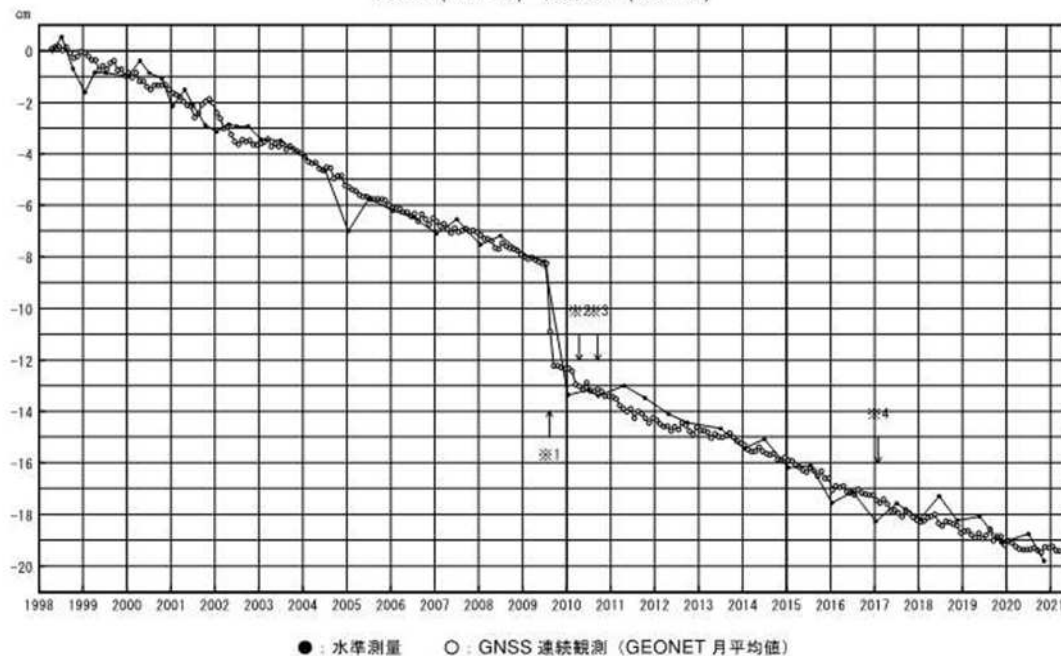


御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

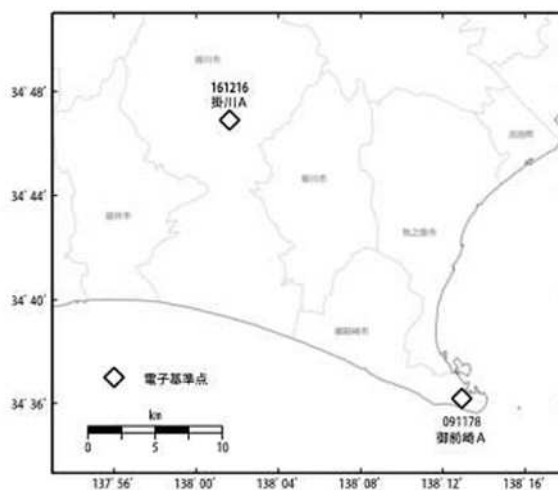
掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



● : 水準測量 ○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

- ・ 水準測量による結果は、最初のプロット点の値を 0cm として描画している。
- ・ GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5: 最終解) から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 3/1~3/6 の平均。
- ・ GNSS 連続観測による結果については、水準測量の全期間との差が最小となるように描画している。

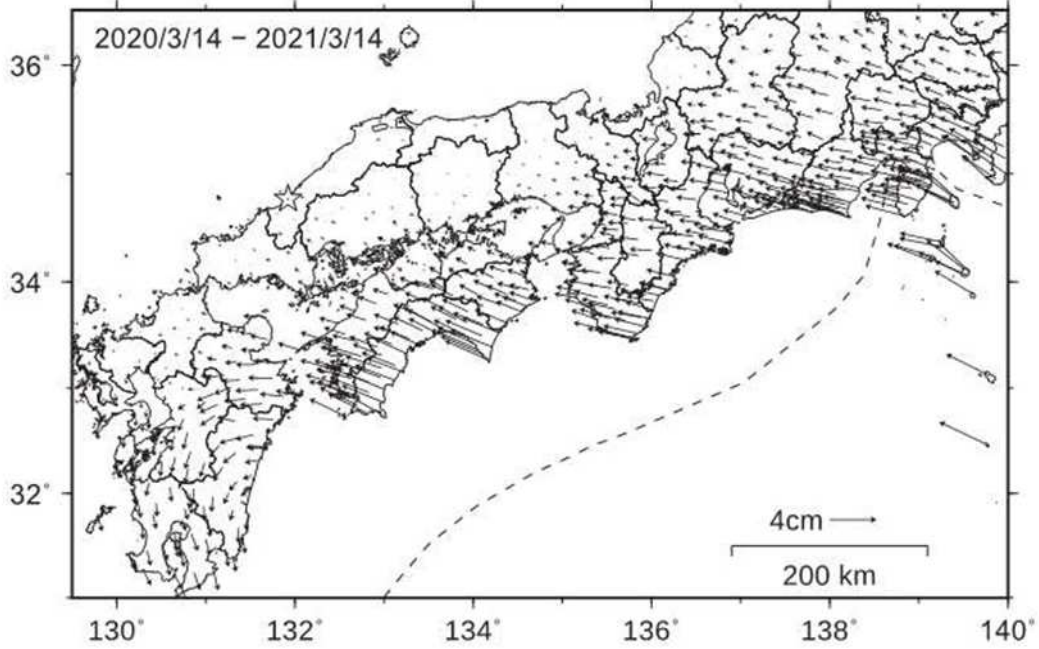
- ※ 1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※ 2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。
- ※ 3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。
- ※ 4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。



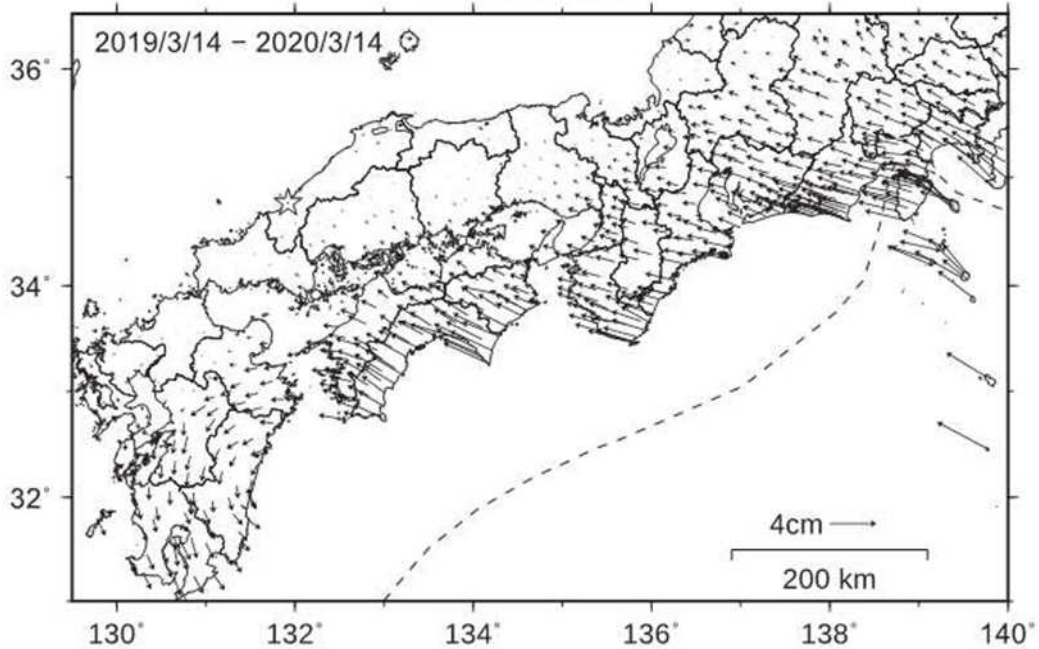
国土地理院

南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】

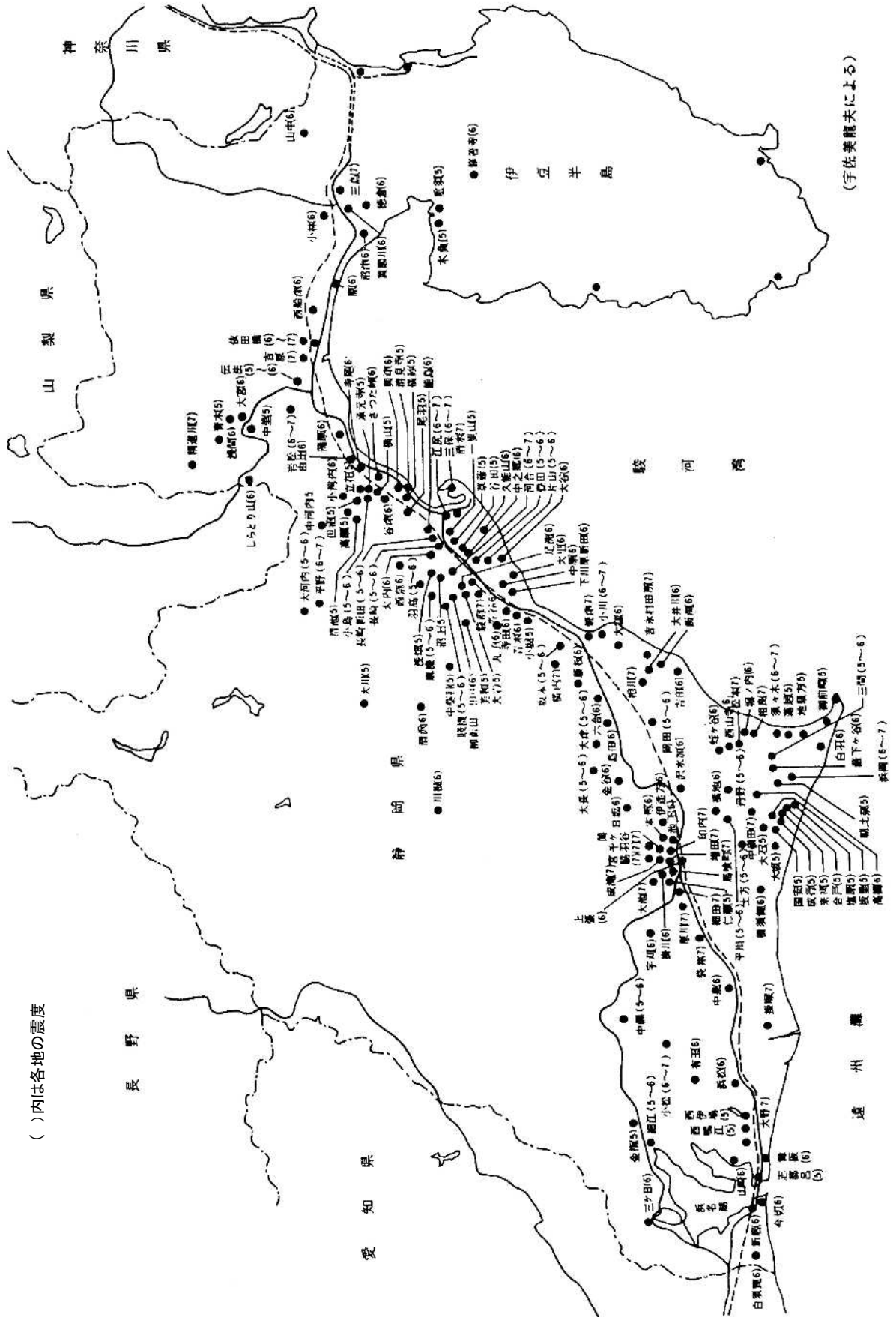


- ・ GEONETによる日々の座標値 (F5解、R5解) を使用している。
- ・ 各日付 ± 6日の計 13日間の変動量の中央値をとり、その差から1年間の変動量を表示している。

国土地理院

2-4-1 静岡県下の安政東海地震度

(県危機情報課)



各地の震度

地名	震度	記事	地名	震度	記事
焼津	7	民家より寺社の被害多し	谷津	6-	社寺・倉等破損、村内残らず小破
小川	6~7	計 268 軒、内潰 62、半潰 28	小嶋	5~6	山崩、土蔵半潰、家中長屋大破
榛原	7	家殆ど倒る(潰 238、半潰 256)	原川町	7	家数 潰 焼失 死 48 の内 24、 24、 2
吉田	6	瓦葺全滅			
岡田	5~6	大破 7、中破 5、小破 13	各和村		10 4
相良	7	不残潰る、下町床上浸水、地割噴泥、出火、死 29	領家村		12
			細田村	7	60 の内 56 1
浜岡	6~7	新野村、潰 70、付近で家 10 痛 38	沢田村	7	20 19 1
島田	6	全半潰多し	高御所村		1
御前崎村	5-	白羽・地頭方潰なし、地出来る	長谷村		8
沢水加	6	菊川、全半潰多し	大池村	7	96 91
大井川	6	底割れ、噴泥、河原満水	新村	6	5 4
丸子	6	宿内一円破損	下又村		7 2
中泉	6	潰 38、半潰 59	上張村	6	6 5 2
掛川	6	計 1116 軒、内潰 374、焼失 597 死 58 土蔵 312 の内 潰 155、焼失 157	仁藤村		
			道脇村	7	19 13
宇苺	6		増田村	7	53 48 4
有玉	6	潰 7、半潰減 30 (浜松市)	馬喰村	7	24 24 1
浜松	6	震度 5~7	印内村	7	10 10
舞阪	6	本陣大破、籠旅潰損 11、津波宿囿石垣打砕	成竜村	7	37 37
			宮脇村	7	15 14
大富	6	潰 200 戸余、亀裂、噴水	菌ヶ谷村	7	23 13
山崎	6	潰家あり(浜名湖畔)	池下村	7	30 2
入野	7	潰 32、残りの過半大破、死 1	牛頭村	6	1
伊場	5-		千羽村		18 26
西鴨江	5-	潰なし	本所村	7	17 4
志都呂	5-		伊達方村	6	14 2
大池	7	潰 301 戸、死 1	須々木村	6~7	大痛 730、中痛 40、小痛 61 海退・落居・相良・平田あり、 瞬時に夕オる家アリ
細江	5~6	関所の石垣崩れ、潰家 2~3 軒	蛭ヶ谷村	6	潰 16、小痛 12、残り 46 軒痛み
大里	6?	潰あり	徳村	7	計 18 の内、潰 10
小松	6~7	計 300 軒内 100 軒損ず、地裂、噴泥水(浜北市)	西山村	6	潰 6、寺潰 1、半潰 2
			松本(相良)	7	計 41 の内、潰 23、半潰 18
中瀬	5~6	半潰 3 (浜北市)	比木藪下ヶ谷	6	計 70 の内、潰 14
三ヶ日	6	転家、屋根底落あり			
横内	7	民家惣潰	新居	6-	3 日前、1 日中沖の西方とどろく。 関所〇で潰る。
今切	6	湊 200 間の所 500 間となり杭出づ			
三島	7	計 1074 の内潰 986、土蔵 274 の内潰 233、半潰 25、寺潰 22、地割れ多く 3ヶ所湧熱湯			

地名	震度	記 事	地名	震度	記 事
駒 場 (掛塚)	7	潰 95、他は半潰、残った家は5%くらい。天竜河口から30丁奥で波高14～15尺	岩 松 村	6～7	(富士市)潰 389戸、半潰 67 地震山出来
宇 久 須	5	亀裂	浅 間	6	大宮町不残大破、本殿ひずみ、舞台・廻廊
妻 良	5	瓦落つ	由 比	6	海岸隆起、家屋大方潰る
木 負	5	亀裂	さつた峠	6?	隆起あり
網 代	5	瓦落ちること多し	蒲 原	6	地割・砂水噴出、潰 3、半潰 35、破損 36 富士川右岸隆起
木 瀬 川	6	41軒のうち潰 18、大小破 19	清 水	7	潰の上焼失 760軒、土蔵 170、人口 2513、内死 56
西 船 津	6	28" 15	三 保	6～7	潰 3、死 7、真崎・八頭新田陥没(浸水)
徳 倉	6	45" 18 11	久 能 山	6-	石灯笼長屋の不残、御宮宝塔小破、他の諸室で潰あり
伝 田 橋	6～7	34" 34	駿 府	7-	諸門・櫓・土蔵など崩れ多し、浅間社殆ど無事、計 4417軒のうち潰 408、半潰 365、破損 3066、井桁上1尺も泥噴出人口 20541、死 7200、焼失 613
伝 法	5～6	258" 64	江 尻	6～7	計 830軒、内潰 120、破損 123、人口 3602、内死 21
大 宮 町	6	240軒のうち潰 123 神田町で潰れ多し	河 合	6～7	潰 160軒、半潰 23
本 吉 原	5	家数 10軒あり、痛みなし	平 野	6～7	家 8分通いたみ、山荒れる不明
原	6	土蔵の類、大方くずる	坂 本	5～6	山崩
青 木	5	貯水池、ひびわれ	飯 淵	6?	潰 9
中里～西在	5+	地われつよし	相 川 (下江留川村)	7	計 140軒、内潰 70、半潰 70 地割れ、噴水
精 進 川	7	潰 170、半潰 106、死 5	六 合	6	潰 18、亀裂噴泥
しらとり山	6	崩る	青 島	6	瓦葺少なからず倒る
興 津	6	新屋敷～中宿間皆潰	藤 枝	6	宿内計 736、内潰 13、半潰 134、破損 548、地割れ、噴泥水
寺 尾	6	山崩、5尺隆起	金 谷	6	本町～河原町 皆潰
羽 高	5～6	大破・潰少し	袋 井	7	不残つぶれ、丸焼け
川 根	6-	土蔵・物置・雪隠大つぶれ	日 坂	6?	2/3 破る。旅宿無難
吉 永 村 田 町	7	100余軒大小とも潰れ大破、田面に凹凸			
横 須 賀	6+	潰 40軒、半潰 15、死 21			
六 合 村	6	倒家 16戸			
大 津 村	6～5	倒潰 2戸 3棟			
大 長 村	5～6	数戸倒壊			
山 中	5+	潰 7～8軒			
熱 海	5	波除石積破損			
重 須	5	伊豆、民家荒増流る。			
修 善 寺	6-	温泉 5日止る。近くに落石谷の埋没、道損あり			
下 田	5	石塔・石灯笼全倒、蔵の鉢巻・土塀くずる。			
沼 津	6+	潰 45、半潰 42、領分村方で潰 4939軒、城の堀の水溢れ石垣しきりに崩る			

(やや確度の低いもの)

震度	地名
5	横山、但沼、承元寺、立花、小河内、横砂、尾羽、鳥坂、浅畑、清見寺下、清池、高瀬、中河内（清水市）、大川村、安東村大岩、長田村、千代田村、（錢座・沓谷・南沼上、北沼上）、美和（足久保口組）、中藁科村、小坂村大和田新田、石谷、谷田村、草薙村、一里山村（静岡市）、地頭方、落居（相良）、金指、大石村、大坂村、来福村、坂里村、成行村、岡安村、合戸村、塩原村、朝比奈村、白須賀
5～6	麻機村、賤機村諸岡山、大河内村、豊田村、片山村、長崎村、平川村、丹野村、三門村、土方村
6	柳新田、田中（静岡市）、西奈村、大谷村、千代田村（上足洗、下足洗、川河）、清沢村姉沢山、青木村、寺田村、下川原新田、中原村、能島村、長崎新田、中之郷村（静岡市）白羽中西、堀ノ内、堀辺、西辺、福田（相良町）、横砂、倉中瀬、河東村前岡、横地村、高橋村
7	中嶺田（小笠）、浅羽口

(以上宇佐美龍夫による)

関東地震津波(1923年)

伊豆半島東海岸の津波の高さ
(平均海面からの高さ 単位:m)



[注1] 安政東海地震(1854年)の入間における津波の高さについて

南伊豆町入間の津波の高さは13.2(16.5)mと近辺の地区にくらべて異常に高い。

これは入間の地形と入射した津波の周期がちょうど増幅しやすい関係にあったからと考えられる。

この現象は地域、条件による局地的なものと考えられ、この一地点の高さをもって、安政東海地震津波全体を見直すには値しない。

[注2] 安政東海地震(1854年)の熱海における津波の高さについて

安政津波のとき、熱海市銀座通りの建物にあわびが流れついたという言い伝えがあり、このことから、津波の高さは6.2mと推定される。しかし被害状況は不明である。

伊豆半島東海岸津波浸水予測調査報告書(静岡県地震対策課)より